相手や目的に応じて書くことの指導 ～既習事項を生かして～

1 小中高の系統的指導の取組

今回のこの講座では、小・中・高ともに

「相手や目的に応じて書くことの指導 ～既習事項を生かして～」

に焦点をあて、児童生徒の実態の把握や指導案づくり、そして実際の指導に当たってきた。言い換えれば、相手意識や目的意識、既習の言語事項を生かした「書くこと」の効果的な指導の研究を進めてきたのである。

研究を進め、学習指導案を練り、実際に授業を行った単元・教材は次のとおりである。

- (1) 小学校 →よく見てかこう「しらせたいな、みせたいな」
- (2) 中学校 →「事業所の方に自分を知らせてもらおう」
- (3) 高等学校→「説明文を書く 学校案内の作成」

また、次のような教師としての思いや願いをもち、指導の工夫に努めてきた。

- 1 **書く意欲を育てたい** **楽しさ・成就感が味わえる「書く」学習を展開したい。**
- 2 **書く内容を充実させたい** **豊かに思いを表現し、書く楽しさを味わわせたい。**
- 3 **書く形式を整えさせたい** **言語事項まで含めた形式の整った文章を書かせたい。**

小・中・高の発達段階や系統性を考えながら全5回にわたり、研究協議を進めてきた。

その中で、成果としてとらえられたこと、課題として挙げられたことについて、今後の現場に生かせる研究の成果としてまとめたい。

2 小中高の取組を通して共通の成果

- ①相手意識や目的意識をより明確にした文章を書くことにより、児童生徒の書くことへの意欲が非常に高まり、内容の豊かな文章を書くことができた。
- ②文章の書き方の「型」を示すことで、児童生徒は書くことに抵抗なく入ることができ、進んで書き、楽しさや成就感を味わうことができた。
- ③既習の言語事項を、児童生徒にその都度確認させて書き進めていくことにより、今まで以上に形式や体裁が整い、丁寧な文章を書くことができた。
- ④人の書いた文章を読み、相互評価をする時間や、自分の文章を振り返る時間などを多く取ることにより、自分の文章の推敲をより高めることができた。
- ⑤小中高の話し合いを深め、発達段階をふまえた指導過程を研究することにより、系統性をもった学習指導を進めることができた。
- ⑥教科で学んだ内容が、総合学習でも生かすことができた。
- ⑦清書において、読み手を意識した丁寧な記述をすることができた。

3 小中高の取組を通して共通の課題

- ①小中高ともに、「書くこと」についての教師のかかわりがどうあるべきなのか。書く内容、添削、評価規準、事前の準備などについてさらに考えることが必要である。
- ②表現力や語彙力などの「書く力」の定着や積み重ねの仕方、段落、接続語、原稿用紙の使い方などの言語事項として押さえないことの定着はどうあるべきか。
- ③「型」に当てはめて書く文章は意欲的に取り組み、成果を挙げたが、次の段階である「型」をやぶった文章への指導や違う文種への応用はどのようにあるべきか。
- ④児童生徒に目的意識をより明確にし、意欲的に取り組ませるために、その時期にあった活動を計画することが必要である。